

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成 29 年度 高松市地球温暖化対策実行計画推進協議会
開 催 日 時	平成 29 年 11 月 7 日 (火) 13 時 00 分 ～ 14 時 20 分
開 催 場 所	高松市役所 11 階 114 会議室
議 題	(1) 会長・副会長の選任について (2) 2014 (平成 26) 年度温室効果ガス排出量等について (3) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出席委員	15 人 嘉門会長、清水副会長、生嶋委員、石川委員、泉川委員、大三島委員、大山委員、片山委員、勝浦委員、熊野委員、篠田委員、中山委員、森田委員、安富委員、山下委員
欠席委員	3 人
傍 聴 者	0 人 (傍聴席：10 席)
担 当 課 及 び 連 絡 先	環境総務課地球温暖化対策室 (TEL 0 8 7 - 8 3 9 - 2 3 9 4)

審議経過及び審議結果

協議会を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。

次のとおり、協議会を開催した。

(1) 会長・副会長の選任について

高松市地球温暖化対策実行計画推進協議会設置要綱第 4 条の規定により、会長・副会長を選出した。

会 長 嘉門委員

副会長 清水委員

(2) 2014 (平成 26) 年度温室効果ガス排出量等について

(事務局より説明)

以後審議

(委 員)

太陽熱利用システム設置補助事業について、平成 21～27 年度は 1 年あたり 7 件ずつ増加しているのに対して平成 28 年度は 2 件と少なくなっている。このままだと達成率が未達で終わるのではないかと。また、この事業に対する利用促進を見たことがないが、現状どうしているのか。そして今後どのようにするつもりか。

審議経過及び審議結果

(事務局)

周知については現在ホームページで行っているが、何かしら他の周知及び普及促進に努める。

(会 長)

ホームページだけではなかなか伝わらないところがある。市民の活動のグループに啓発を行うなど、せっかくの補助事業を周知してもらうための努力はぜひ考えてやっていただきたいと思う。

(委 員)

温室効果ガス排出量について、国は直近のもので平成 27 年度のデータを公表している。今の会議の開催であれば載せられるように思うがどうか。それと 4 ページ目の円グラフについて、全国と高松市の項目ごとの色を統一したほうが見やすくよいのではないか。

取組の中に LED への照明の転換とあるが、市全体として、将来にあたっての計画があれば、そういうのも載せるとよいのではないか。国の長期計画では、家庭の照明は 100%LED に転換するという方針を出しているが、そういうところとの整合性を市としてはどのように考えているのか。

最後に剪定枝葉を堆肥化する事業が取りやめになったとあるが、これはなにか理由があるのか。

(事務局)

1 点目について、市の温室効果ガスを算定するために必要なデータが直近のもので平成 26 年度のものとなるため、それに合わせる形でデータを公表している。

2 点目について、ご指摘のとおり色を揃えたほうが見やすいと思うので以後気を付けるようにしたい。

3 点目について、市として LED 化を推し進めていくという計画は現在のところ打ち出せていない状況である。

4 点目について、手元に資料がないので、担当課に確認し、後日回答したい。

(委 員)

様々な活動において、国、県、市が連携を取りながら進めたほうがよいと考えている。例えば、「COOL CHOICE」という活動についても、国が全国的な国民運動として進めているが、新しくなった実行計画の冊子の中にも織り込んで国民的な運動を進めていけるといいと思う。

(会 長)

世界的に公表されている温室効果ガス排出量については 2014 年度が最新で、世界全体の排出量は約 330 億トンである。温室効果ガス排出量の占める割合は中国、アメリカ、インド、ロシアに次いで日本は 5 番目であり、中国は 28%を超えており、日本は 3.6%という

審議経過及び審議結果

状況である。

LED については、交換時期のものを LED に交換するのはよいが、最近の蛍光灯は消費電力量が減っているので、まだ使えるものを無理に LED に交換することは推奨しない。なので、バランスよくやっていただければと思う。

剪定枝葉のチップ化、堆肥化の事業についてはまた検討していただきたい。

(委員)

進行管理指標の目標の達成率について、既に目標を達成しているものや、残りの年数では達成が難しいものが見受けられるが、目標の見直しや、達成のために新たな施策を考えるとすることは行わないのか。

特に達成率の低いものについてみると、ごみのリサイクル率については世の流れとして、紙を使った本などいろいろなものがネット社会により減ってきており、ここを向上させるのは非常に難しいと思うので別の切り口を考えたほうが良いと思う。もう一点、レンタサイクルについては、誰を対象にするかというのがそもそもあって目標は立てられるべきである。市民の皆さんは自分の自転車をお持ちだと思うので、県外から来られた方をターゲットにするのであれば、施策の打ち出し方が違ってくると思う。逆に市民も巻き込んでという話になると、中国がレンタサイクルの文化がすごく普及しており、そういうところに高松市も取り組むヒントがあるのではと思う。

(事務局)

指標に関しては、実行計画を昨年度改定した際にいくつか変更しており、ごみのリサイクル率について新しい計画では、ひとり一日あたりのごみ資源化量という指標を設定している。レンタサイクル利用者数も新しい計画では目標値を変更し、より実態に沿うような設定をしている。

(会長)

指標のなかで下水汚泥消化ガス利用量の達成率が 1607%というとんでもない数値になっているが、これは新しい計画では変更しているのか。

(事務局)

改定後の計画では使用量ではなく年間利用率という指標に変更している。基準年の平成 25 年度は 37.1%、現況値である平成 27 年度は 45.8%、平成 32 年度の目標値では 95.2%という率を設定している。

(会長)

平成 28 年度の利用率はいくらなのか。

(事務局)

説明できる資料が手元にないので、後日回答したい。

審議経過及び審議結果

(委員)

14 ページの地産地消の促進のなかのフードウッドマイレージ事業について、地場産業を活用する割合が学校給食で 30.9%ということだが、これは何年度の値なのか。合わせて、これまでの実績の推移を教えてください。

(事務局)

この値は平成 28 年度のものである。これまでの推移は、手持ちの資料がないため後日回答したい。

(委員)

学校給食の牛乳について、ビン容器で支給されている割合というのもわかれば指標に加えてもいいのではないかと思う。フードウッドマイレージとは違うが、リユースに関する事なので地球温暖化防止の観点からでも。

(事務局)

担当課のほうにその旨を申し伝えておく。

(会長)

電気の使用量がどれぐらいCO₂の排出につながるかという根本的なところが資料 2 ページ下の電力排出係数であり、これが四国電力のエネルギー供給源が何によるかによって大きく変わるわけである。基準年の 0.408、平成 22 年度の 0.326 という値は原子力発電所が好調に稼働しているときというのは承知のとおりである。最近の高い値が続いているが、伊方原発が動き出したので、今年度ぐらいからは下がる可能性がある。しかし問題は 3 ページの年間電力消費量であり、消費量は近年大きく伸びているのでこれを減らさなくてはならない。特に民生家庭部門の電力消費量がなかなか減らないのでこれをうまく減らすことができればCO₂排出量を大きく減らすことができるのではと期待される場所である。

(委員)

公共交通を旧市内だけでなく新市内まで広げていただくと、路線バスや電車、自転車などが効率よく利用できるのではと思うがそのあたりの考えはどうなっているのか。

(事務局)

担当課のほうにその旨を申し伝えておく。

(会長)

バス路線の再編やコミュニティバスの適切な運用などの事業について担当課のほうでもご尽力されているようだが、東西方向のバス路線を増やすという事を検討されてはどうか。ただし、コンパクトエコシティを推進するという視点から、居住をできるだけ拠点のほうに誘導する必要があるので、バランスの中で施策を遂行していただき

審議経過及び審議結果

たい。

(委員)

市が温暖化対策として取り組んでいることを定期的に市報に載せてみてはどうか。また、私たちが身近に取り組める温暖化防止の方法を学習できるような場を設けていただけたらと思う。

(事務局)

今年度、たかまつ COOL CHOICE キャンペーンというのを国の補助金を用いておこなう予定である。具体的な内容はまだ詰めている段階だが、その中でパネル展示や省エネセミナーなどを開催予定である。詳細が決まり次第、発表させていただく。

(会長)

それでは本日の会議はこれをもって終了する。